

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 志井 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

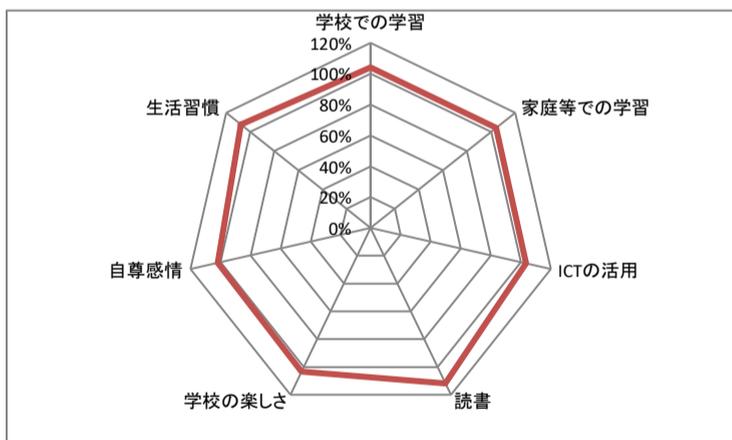
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的には全国平均正答率をやや上回っていた。「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率がやや高かった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	表現の効果を効果を考える問題	
	努力が必要な問題	文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	全体的には全国平均正答率をやや上回っていた。「データの活用」に関する問題の正答率がやや高かった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取る問題	
	努力が必要な問題	図形を構成する要素に着目する問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	全体的には全国平均正答率をやや上回っていた。「生命」を柱とする領域に関する問題の正答率がやや高かった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	自然の事物・現象から得た情報を他者の気付きの視点で分析・解釈し、自分の考えを持つ問題	
	努力が必要な問題	実験器具とその正しい使い方に関する問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭で計画的に学習に取り組んでいる児童の割合が高く、読書が好きと答えた児童の割合も高い。能動的に学習に取り組んでいる児童が多いことがうかがえる。自主学習に関する取組を引き続き進めていきたい。 ・自尊感情に関する項目では、高い自尊感情を持っている児童が多いが、低い児童も一定数見られる。自分の夢や将来の見通しを持たせる指導と同時に、各自の夢の実現に向けて具体的な行動に結び付けることができるような指導が必要である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・ICT等も活用して、一時間の授業時間において、自分の考えを持ち、交流する時間を設定していく。
- ・理科においては、観察・実験活動を通して実感のともなった理解につなげる授業に取り組んでいく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・「早寝・早起き・朝ごはん」を基本に生活リズムを整えることや、携帯電話・スマートホンの使い方の指導も含めて、家庭での規則正しい生活についての啓発を継続的に行っていく。
- ・中学校とも連携し、「携帯・スマホ電源10時OFF」などの取組を行っていく。